

雲折々人を休る月見かな ばせを

野依のより〔高倉宮たかくらみやの御子ちつきよ蟄居ちつきよし給ひ、嗟峨さがの野依のよりにおはします由、平家物語へいけに見へたり。今詳ならず。木曾義仲きそよしなか上洛し

て暫く主になす故に、木曾きそが宮とも称す〕

別雷峯わけいかづちのみね〔松尾社まつのをの山上をいふ、此所に巖あり、松尾神降臨かうりんの所なり〕

松尾神詠云 山城乃別雷山爾宮居士亭天降古登神代与利佐幾

最福寺さいふくじ〔松尾まつのをの南、松室村まつむろにあり。浄土宗にして、本尊は阿弥陀仏あみだぶつを安置す。当寺は安元二年に、延朗上人えんらうの開基

なり、久しく荒廢に及びしを再興して移し建つる所なり。延朗上人えんらうの像当寺に安置す、坐像三尺余にして、上人在世の

時仏工に命じてこのんで作らしむる所なり〕

峯堂みねのだう、谷堂たにのだう〔旧跡は葉室下山田はむろの西山上にあり、法華山寺ほつげさんじと号して延朗上人えんらうの開基なり。いにしへは仏閣巍々と

して、四十九院、十二の楼閣、五重ごちゆうの塔たふ、三間四面の輪藏等りんざうとうあり。光嚴院御宇くわうごんぎよ正慶元年四月九日、千種頭中將ちくさとうのちゆうじやうの軍火

に罹て灰燼となる。其後小堂をいとなむといへども、野火の為に亡滅す、委は太平記に見へたり。今下山田しもの南面の川上、方二町ばかりの所、瓦石銅鉄の具土中より出るといふ。峯堂みねのどうの本尊薬師やくし仏ぶつは、今下山田の内小堂に安置す、尊像そんざう所ところく焼損ず。谷堂たにのどうの本尊十一面千手觀音めんせんじゆくわんおんは今下津林村いましもつはやしに安置す」

真如寺しんによじ〔葉室はむろの山上にあり、法華宗にして、中興ちゆうこう寂遠院じやくゑん日通につつう、洛陽妙伝寺らくやうめうでんの十二世なり。万治年中に再興す、當時は旧参議良繩朝臣もとざんぎ よしつなあ ぞんの建立にして、天台宗なり。旧地は今の地より南の方へ去る事二町ばかり、平尾山ひらをの山上なり、土人どじん其地を古真如寺ふるしんによじといふ。初建立の由縁は三代実録じつろくに見へたり、真如院しんによゐんとなづく。正慶元年たにだう谷堂たにだうと共に焼失す。今慈覺大じかくだい師しの作り給ふ聖觀音しやうくわんおんの尊像残りて当寺にあり〕